

熊野古道センター映画祭



第1回
2015.8.8 土
TOMORROW
 / 明日
 製作：1988年 / 監督：黒木和雄
 105分 (VHS での上映です)

要申込・先着順
80名様
入場無料

第2回
2016.1.16 土
第三の男
The Third Man
 製作：1949年 / 監督：キャロル・リード
 105分 (DVD での上映です)

スケジュール
 13:00 開場
 13:30 解説
 13:45 上映
 15:35 座談会
 16:00 閉会

受付 各開催日の一ヶ月前から※定員になり次第終了

登壇者
 吉村英夫氏 (映画評論家)
 川端守 (三重県立熊野古道センター長)

解説
 田中忍氏 (三重映画フェスティバル実行委員会)
 藤田明氏 (三重映画フェスティバル実行委員会)

場所
 三重県立熊野古道センター映像ホール

お申込み・お問い合わせ

三重県立熊野古道センター
 三重県尾鷲市向井 12-4

0597・25・2666



主催：三重県立熊野古道センター / 協賛：三重映画フェスティバル実行委員会

「熊野古道センター映画祭」開催にあたって

三重県立熊野古道センター

三重県立熊野古道センターでは、懐かしの名画や若い世代に観て欲しい映画など、三重県視聴覚ライブラリーが所蔵する映画（VHS、DVD）の中から、みなさまがもう一度スクリーンで観たいという作品を選びすぐり、上映会を開催します。今回は、戦後70年を記念し、戦争を背景に製作された2作品を2回にわたり1作品ずつ上映します。

第1回は、1945年8月9日、原爆が投下される前日の長崎を舞台に、人々の日常を描いた作品『TOMORROW／明日』を、第2回は、戦後間もないオーストリアを舞台に、戦争や人物の背景を、モノクロの光と影で表現した作品『第三の男』を上映します。

上映会のほか、映画文化振興のため「三重と映画」をテーマに県内で活動する「三重映画フェスティバル実行委員会」よりゲストをお招きし、作品解説及び上映後の座談会をおこないます。座談会についてはご希望の方のみご参加ください。

戦後70年という節目を迎えるにあたり、みなさまには戦争を風化させず未来について考える機会としていただければ幸いです。どうぞお楽しみください。

『TOMORROW／明日』1988年（VHS 105分）

1945年8月9日に原爆が投下される前日の長崎で暮らす人々の日常生活を描いた作品です。戦争という不穏な空気のなかでも、明日を信じて懸命に生きようとしている人々の命を瞬時の光が奪い去ります。原爆に対する怒り、原爆投下後の悲惨さを想像させる黒木和雄監督の名作。

監督 黒木和雄
原作 井上光晴
脚本 黒木和雄 井上正子 竹内銃一郎
音楽 松村禎三
出演 桃井かおり 南果歩 仙道敦子
水島かおり 佐野史郎 長門裕之
黒田アーサー 田中邦衛 他

『第三の男』 The Third Man 1949年（DVD 105分）

第二次世界大戦後のオーストリアを舞台に、アメリカ人の小説家が友人の失踪の真相をさぐるサスペンス映画。戦争で破壊され荒廃したウィーンの姿が光と影のコントラストによって美しく、怪しく映し出されているキャロル・リード監督の名作。

監督 キャロル・リード
原作 グレアム・グリーン
脚本 グレアム・グリーン
音楽 アントン・カラス
出演 ジョセフ・コットン アリダ・ヴァリ
オーソン・ウェルズ トレヴァー・ハワード
パウル・ヘルビガー バーナード・リー 他

★座談会登壇者プロフィール

藤田 明（ふじたあきら）

1933年、東京生まれ。大戦末期に津へ疎開。尾鷲高校をはじめ、県内各地の高校で国語科を担当した後、高田短期大学教授、三重大学ほかの非常勤講師をつとめた。現在、全国小津安二郎ネットワーク会長。著書「三重・文学を歩く」「平野の思想・小津安二郎私論」など。

吉村英夫（よしむらひでお）

1940年、津市生まれ。早稲田大学卒業。長島高校ほか高校教員。元三重大学非常勤講師、元愛知淑徳大学教員。中日新聞一行詩選者。著書「山田洋次と寅さんの世界」（大月書店）「一行詩 父よ母よ」ほか。

川端 守（かわばたまもる）

1941年、紀北町生まれ。三重大学卒業後、紀北地区の三つの高校に国語科教員として勤務。現在に至るまで尾鷲市在住。現在、東紀州テン・マウンテンの会会長。著書「見える限りの風景」（暮らしの手帖社）「熊野古道小辺路紀行」（風謀社）など。